

イチゴの環境制御技術習得による所得向上

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

東近江管内の施設イチゴ栽培面積は、新規就農者の参入、規模拡大する生産者により年々増加しており、その多くは無加温の低コスト栽培です。直売やイチゴ狩りでは安定的に収穫が続くことが望まれますが、生育や収量は冬期の天候の影響を受けやすく、低コスト栽培方法では限界があります。近年は、冬期の収量安定を目的に、施設内の環境制御技術（可視化、加温および炭酸ガス施用）を導入される生産者が増加しています。施設内環境を測定し記録されていても、測定数値を栽培管理に活用されていない状況でした。

そこで、令和3年度に環境制御方法の検討について取り組んだ「次世代につなぐ営農体系確立支援事業」の実証成果を踏まえ、意欲ある3戸を対象にモデル農家として、施設内の測定数値を活用した栽培技術を習得することにより、冬期（11～2月）に増収され所得向上が達成されるよう支援しました。



写真1 現地研修会

【普及活動の内容】

(1) 環境制御技術の習得支援

個々の環境測定データを共有および活用した現地研修会を開催し、環境制御技術への技術研鑽と理解促進を図りました。

(2) 冬期の増収による所得向上支援

「次世代につなぐ営農体系確立支援事業」の技術実証データをとりまとめ、環境制御技術の指標を作成しました。この指標を踏まえ、対象の環境測定データと生育・収穫状況にあわせた環境制御方法について定期的な現地巡回により指導を実施しました。

【普及活動の成果】

環境制御技術の習得については、個々の環境測定データを共有し、活用した現地研修会により、環境制御技術の理解が深まるとともに仲間づくりにも貢献しました。また、冬期の増収による所得向上については、目標収量に対し115%を達成する農家もある等、全対象農家において増収し、機械の導入費や燃料費が増加しても100万円/10a程度の利益が見込めることがわかりました。今後、これらの農家をモデルに、環境制御技術の波及・推進を図ります。

◎対象者の意見

前作に比べ環境制御技術を活用することで冬期の収量が増加し所得向上につながりました。（生産者K氏）